

# 日本語学オリンピック 2018 解答

国際言語学オリンピック日本委員会

2018 年 3 月 25 日実施

## 問 1

1. (l) Přijď království tvé. (2 点)
2. (d) Buď vůle tvá, jako v nebi, tak i na zemi. (2 点)
3. (e) Chléb náš vezdejší dejž nám dnes. (2 点)
4. (b) A odpusť nám naše viny, jako i my odpouštíme naším viníkům. (2 点)
5. (a) A neuveď nás v pokušení ale zbav nás od zlého. (2 点)
6. (m) Przyjdź królestwo twoje. (2 点)
7. (c) Bądź wola twoja jako w niebie tak i na ziemi. (2 点)
8. (f) Chleba naszego powszedniego daj nam dzisiaj. (2 点)
9. (i) I odpuść nam nasze winy, jako i my odpuszczamy naszym winowajcom. (2 点)
10. (h) I nie wódź nas na pokuszenie, ale nas zbaw od złego. (2 点)
11. (o) Tillkomme ditt rike. (2 点)
12. (n) Ske din vilja, på jorden såsom i himmelen. (2 点)
13. (g) Giv oss idag vårt dagliga bröd. (2 点)
14. (j) Och förlåt oss våra skulder såsom ock vi förlåta dem oss skyldiga äro. (2 点)
15. (k) Och inled oss icke i frestelse, utan fräls oss ifrån ondo. (2 点)

## 問 2

1. ク (1点)
2. カ (1点)
3. オ (1点)
4. エ (1点)
5. ア (1点)
6. ウ (1点)
7. ケ (1点)
8. イまたはキ (1点)
9. イまたはキ (1点)
10. *Mek rihan* (1点)
11. *Kwati tak rihan* (1点)
12. *Araw kwatiib rihan* (1点)
13. *Akra mek akteen* (1点)
14. *Yaas dabaloob akteen* (1点)
15. *Akteene mek rihan* または *Mek akteeneeb rihan* (1点)
16. 幸せなロバを見た (1点)
17. 強い友達を知っている [*Akraab* → *Akra*] または 「友達が強い」 のを知っている  
[*Akraab araw* → *Araw akraab*] (翻訳で1点・一致する直しで1点)
18. 知っている犬を見た (1点)
19. 「ロバが小さい」 のを知っている (1点)

目的語 動詞 の語順を取る。

名詞と修飾語の語順は任意である。名詞 修飾語 の語順を取るときには、修飾語の最後の母音が繰り返されて、目的格を示す *-b* が付加される。 *akra tak* 「強い男」と *tak akraab* 「『男が強い』の」を比較せよ。修飾語が関係節のときには、動詞に *-e* が付加される。たとえば、 *Tak rihan* 「男を見た」からは *Rihane tak* と *Tak rihaneeb* が派生し、どちらも「見た男」と翻訳される。

### 問 3

1. (a) apsimbowaanꞑkimbi (2点)
- (b) apsindacisi (2点)
- (c) apsimbowaandacini (2点)
2.
  - 動詞語幹-使役接尾辞-否定接尾辞-テンス接尾辞-人称接尾辞, のような構造になっている。 (4点)
  - 使役の接辞は -bowaaN, 否定の接辞は -da, 過去の接辞は -kiN/-ciN, 一人称単数主語の接辞は -bi, 二人称単数主語の接辞は -si, 三人称単数主語の接辞は -ni, となっている。 (2点)
  - 接辞の N の部分は後続する接辞の頭音の調音位置に同化する。したがって b の前で m, d の前で n, k の前で ꞑ で現れる。さらに二人称単数主語接辞 -si と三人称単数主語接辞 -ni の前では脱落する。 (2点)
3.
  - 上記の形態論は**動詞の語幹が子音 (n) で終わる場合のもので, 動詞語幹が母音で終わる場合**には, 使役の接辞は -waaN, 否定の接辞は -ra, 過去の接辞が -xaN/-ciN となる。 (3点)
  - さらにこの言語には**母音調和**があり, 一語中に a と ə は共存しない。語幹に a がある語の接辞には a が現れるが, 語幹に ə がある語の接辞には ə が現れる。したがって語幹に ə がある語では, 使役の接辞は -wəəN, 否定の接辞は -də で現れている。なお接辞をはじめとする形態素に条件による別の形がある場合これを異形態という。 (3点)

## 問 4

2, 3 列目は想定解, 4 列目は別解である。配点は各 2 点で, 子音だけが合っているものは 1 点である。

14	ᠳ	ay		月
15	ᠪᠳᠠᠨ	bodun	bodan, bodın, budan, budun, budın	民族
16	ᠠᠨᠳᠠ	anda	ende	そこで
17	ᠣᠲᠦᠬᠢᠨ	ötügen	ötükün, ötükün, ütügen, ütükün, ütükün	祈祷師
18	ᠬᠠᠰᠢ	kaşı	akşı, akaşı, akışı, akuşı	そのまゆげ
19	ᠶᠠᠨᠶᠤᠰᠠᠷ	yañırsar		間違えれば
20	ᠪᠡᠭᠯᠡᠷᠢᠭᠳᠡ	beglerigde		夫たちから
21	ᠲᠡᠮᠢᠷ	temir		鉄
22	ᠲᠣᠬᠤᠵ	tokuz		9
23	ᠬᠣᠵᠢ	közi		その目

## 音韻に関して

- 一つの単語の中で後舌母音 {a, ı, o, u} と前舌母音 {e, i, ö, ü} は共存しない。
- 音節頭の子音連続は許容されない。
- 円唇広母音 {o, ö} は最初の音節以外では現れない。

## 文字に関して

- 書記方向は右から左。
- 単語の最初の音節の母音が {a, e} なら書かず, {ı, i, o, u, ö, ü} なら書く。
- 但し {ok, uk, ök, ük} で書かれた場合は次の音節の母音が書かれる。
- 以上の例外を除いて語中の母音は書かない。
- 語末の母音は書く。
- 連続する二つの音素 {ok, uk, ök, ük, nç, nd} を表す文字は他の文字に優先して選ばれる。

- 一部の子音 {b, d, g, k, l, n, r, s, t, y} を表す字はそれを含む単語の母音調和のグループが後舌母音なのか前舌母音なのかによって使い分けられる：

	b	d	g	k	l	n	r	s	t	y
後舌	ɔ	ʒ	ʁ	ŋ	ʝ	ɔ̃	ɲ	ʒ	ʒ	ɔ̃
前舌	ɔ̃	ʒ	ɛ	ɲ	ɲ	ɲ	ɲ	ɲ	ɲ	ɲ

- 母音を表す字は複数の読みがある。読みは音韻規則と上記子音字の存在に従って決まる：

ɔ̃	ɔ̃	ɔ̃	ɔ̃	ɔ̃	ɔ̃
a	ɪ	o	ö	ok	ök
e	i	u	ü	uk	ük

- その他の文字の音価は以下の通り。二重子音を表すものもある：

ɔ̃	ɔ̃	ɔ̃	ɔ̃	ɔ̃	ɔ̃	ɔ̃	ɔ̃	ɔ̃
ç	m	p	ʒ	z	ɲ	ɲ	nç	nd

## 問 5

配点は各 2 点である。

曜日	モンゴル語 (キリル文字)	(モンゴル文字)	チベット語
日	НЯМ	ᠨᠶᠠᠮ	ཉི་མ།
月	даваа	ᠳᠠᠪᠠᠭᠠ	ཇཱ་བ།
火	мягмар	ᠮᠶᠠᠭᠮᠠᠷ	མིག་དམར།
水	лхагва	ᠯᠬᠠᠭᠠᠪᠠ	ལྷག་པ།
木	пүрэв	ᠫᠦᠷᠡᠪ	ལྷན་བྲ།
金	баасан	ᠪᠠᠶᠠᠰᠠᠨ	བ་སངས།
土	бямба	ᠪᠶᠠᠮᠪᠠ	ཕྱེན་པ།